目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

三区間交流事業

実　施　報　告　書

（令和６年７月２３日～２６日）

令和６年１１月

目黒区文化・交流課

【目　　次】

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

Ⅱ　三区間交流事業（ソウル特別市中浪区）【７月２３日～２６日】
　１　目　的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　２　主催者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　３　日　程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
　４　目黒区選手団及び代表団、議員団の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
　５　概　要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
　６　報告会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　７　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　８　選手感想文（目黒区選手１６名）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

【参考資料】
　三区間交流事業事前調査（ソウル特別市中浪区）【４月１５日～１７日】
　１　目　的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　２　日　程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　３　訪問団の構成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　４　概　要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
　５　まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

Ⅰ　は じ め に

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和５４年に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、２年後の昭和５６年に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成３年に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成２２年に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成２３年に東城区と目黒区は改めて友好都市協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区との交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成２２年に中浪区から目黒区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成２５年には、「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換を開始したほか、平成２６年には、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行うなど、交流を推進してきました。

東城区と中浪区との交流推進に向けて、平成２７年７月には東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張 家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないかと提案を行い、東城区長から前向きな回答を得ました。

その後、平成２８年７月に東城区で行われた三区による実務者協議等を経て、翌平成２９年７月に東城区において、目黒区・東城区・中浪区の三区による第１回の三区間交流事業が実施されました。青少年の交流種目としてバスケットボールが採用され、三区の中学生が試合を行いました。続いて、平成３０年には目黒区を開催区として、令和元年には中浪区を開催区として、バスケットボールを種目とするスポーツ交流や文化交流を行いました。

令和２年からは新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、対面交流を中止し、オンラインにて動画交換やライブ配信での交流を続けてきました。そして、令和６年度対面開催に向けて、令和５年９月からオンラインで三区協議を重ね、令和６年３月の三区副区長オンライン会談にて正式に中浪区での対面開催が決定されました。

こうした経過を踏まえ、本年７月２３日から２６日にかけて、中浪区において三区間交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

Ⅱ　三区間交流事業（ソウル特別市中浪区）【７月２３日～２６日】

１　目　的

友好都市である中国北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流及び文化交流事業を行う。

２　主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

３　日　程

令和６年７月２３日（火）から７月２６日（金）までの４日間

月日	時間帯	内　容	場　所
７月２３日（火）	午前	・出国	羽田空港
	午後	・ソウル特別市中浪区到着 ・練習試合 ・目黒区代表団　中浪区庁長訪問等 ・歓迎夕食会	金浦空港 ムクドン多目的体育館 中浪区役所 The Honors
７月２４日（水）	午前	・バドミントン大会開会式 ・交流試合（予選）	ムクドン多目的体育館
	午後	・交流試合（予選） ・目黒区代表団　中浪区内施設視察等 ・クライミング競技体験	ムクドン多目的体育館 中浪養源メディアセンター他 龍馬瀑布公園
７月２５日（木）	午前	・交流試合（決勝） ・バドミントン大会閉会式	ムクドン多目的体育館
	午後	・歓送昼食会 ・目黒区代表団　中浪区内施設視察等 ・工芸体験、施設見学	スカイガーデン・ザ･パーティ 中浪区立情報図書館他 パン・ジョンファン教育支援センター、オンギ（甕）テーマ公園
７月２６日（金）	午前	・韓国観光広報施設見学・体験	ハイカグラウンド
	午後	・ソウル特別市内視察 ・帰国	－ 羽田空港

＜参考＞　経費負担

宿泊旅費、海外旅行保険、旅券交付手数料、ポロシャツ等５，７４８千円余。

※三区間の取決めにより現地車両費、通訳士経費、交流食事会経費は中浪区が負担

４　目黒区選手団及び代表団、議員団の構成

（１）　三区間交流選手団（２３名）

団　長　　平野　宏子　　スポーツ振興課長

団　員（事務局）

成毛　久雄　　文化・交流課交流推進係長

香川　えり子　文化・交流課交流推進係主任

山口　善崇　　スポーツ振興課スポーツ事業係主事

（指導スタッフ）

野村　幸一　　目黒区バドミントン協会理事長

花輪　美保　　目黒区バドミントン協会常任理事

（看護師）

熊本　浩子

選　手　　目黒区在住の中学２年生生徒１６名（男子８名、女子８名）

学　校　名	氏　名	性別
目黒区立第七中学校	藤井　杜羽	女
目黒区立第七中学校	西村　美音	女
目黒区立大鳥中学校	阿部　來未	女
目黒区立大鳥中学校	阿部　栞奈	女
目黒区立大鳥中学校	稲村　咲季	女
目黒区立大鳥中学校	松尾　はな	女
都立桜修館中等教育学校	日南山　麗	女
私立実践女子中学校	寺村　優花	女
目黒区立第七中学校	小笠原　煌稀	男
目黒区立第七中学校	安東　丈生	男
目黒区立第七中学校	飯塚　紘一	男
目黒区立目黒中央中学校	鷲澤　巧真	男
都立桜修館中等教育学校	八木澤　正海	男
私立森村学園中等部	楠本　颯太	男
私立多摩大学目黒中学校	高橋　律	男
私立三田国際学園中学校	澤田　宏愛	男

（２）代表団（４名）

青木　英二　　目黒区長

勝島　壮介　　文化・スポーツ部長

後藤　圭介　　秘書課長

千田　美都夫　文化・交流課長

（３）議員団（１２名）

おのせ　康裕　　目黒区議会議長
田島　けんじ　　目黒区議会議会運営委員会委員長
川原　のぶあき　公明党目黒区議団幹事長
西村　ちほ　　目黒区議会生活福祉委員会委員長
鈴木　まさし　　自由民主党目黒区議団・区民の会幹事長
たぞえ　麻友　　めぐろの未来をつくる会幹事長
山本　ひろこ　　目黒区議会立憲民主党幹事長
松田　哲也　　日本維新の会目黒区議団幹事長
後藤　さちこ　　日韓友好目黒区議員連盟会員
こいで　まあり　日韓友好目黒区議員連盟会員

（事務局）

松下 健治　　目黒区議会事務局長
榎本 功　　目黒区議会事務局庶務係長

５　概　要

（１）第１日目（令和６年７月２３日）

ア　目黒区選手団　練習試合

①　日　時　　令和６年７月２３日（火）午後３時から午後５時３０分まで
②　場　所　　ムクドン多目的体育館

翌日から行われるバドミントンの試合に向けて、実際の試合会場で練習を行いました。午後３時までは自由練習を行い、中浪区選手団が到着後は混合チームが対面しました。約２時間半の練習を行い、試合会場の雰囲気を確認し、翌日の試合に備えました。

イ　目黒区代表団 中浪区庁長訪問

①　日　時　　令和６年７月２３日（火）午後３時から午後４時まで
②　場　所　　中浪区役所　区長室
③　参加者　　【中浪区】柳 炅基（リュウ ギョンギ）中浪区庁長ほか３名
　　【目黒区】区長、文化・スポーツ部長、秘書課長、文化・交流課長

代表団は中浪区庁において柳 炅基（リュウ ギョンギ）区長らを訪問し、歓談の時間を持ちました。柳 炅基区長からは「この５年間の時間は長かったが、皆さんにお会いできて大変うれしく思う。この交流が、三区が成長し続け未来を築いていく機会になることを願っている。」とのお言葉をいただき、その後は互いの区の状況について意見交換を行いました。

ウ　歓迎夕食会（柳 炅基（リュウ　ギョンギ）中浪区庁長主催）

①　日　時　　令和６年７月２３日（火）午後６時から午後８時まで

②　場　所　　The Honors

③　参加者　　東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区代表団・選手団・議員団

三区の選手団や代表団が一堂に会し、歓迎夕食会が行われました。目黒区からは代表団と選手団、議員団が参加しました。各国の代表が挨拶し、コロナ禍後久々に一堂に集うことができた喜びを称え、全員で乾杯しました。

食事内容はチャプチェやカルビタンなどの韓国料理はもちろんのこと、日本と中国に馴染み深い料理も提供され、各国の選手は互いの食文化にふれることができました。

（２）第２日目（令和６年７月２４日）

ア　バドミントン大会開会式

①　日　時　　令和６年７月２４日（水）午前９時３０分から１０時３０分まで

②　場　所　　ムクドン多目的体育館

③　参加者　　東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区代表団・選手団・議員団

【目黒区】区長、文化・スポーツ部長、秘書課長、文化・交流課長、スポーツ振興課長

交流事業２日目は開会式から始まりました。

今回は三区（三国）対抗ではなく、混合チームで試合を行うという初めての試みです。子どもたちは４つのチームに分かれて入場しました。各チームの名前は「chin-gu」「péng-you」「bˆt」「domodaggi」で、それぞれ日中韓の言葉で「友達」を意味する単語から名づけられました。

各区代表者からの挨拶のあと、中浪区体育協会会長の開会宣言と参加者の盛大な拍手により、スポーツ交流（バドミントン試合）の幕が開きました。

イ　交流試合（予選）

①　日　時　　令和６年７月２４日（水）午前１１時から１２時２０分まで、午後２時から４時まで

②　場　所　　ムクドン多目的体育館

生徒たちは男子ダブルス、女子ダブルス、混合ダブルスの試合に２試合以上参加する運営となっており、対戦表をもとに試合が進行されました。他国選手とペアを組み、緊張のもとに始まった試合ですが、次第に声かけやハイタッチなども増え、互いにコミュニケーションを工夫しながら試合に取り組みました。

ウ　目黒区代表団　中浪区内視察

①　日　時　令和６年７月２４日（水）午後２時から３時半まで

②　場　所　パン・ジョンファン教育支援センター、中浪養源メディアセンター

代表団は、パン・ジョンファン教育支援センターと中浪養源メディアセンターを視察しました。教育支援センターは、学校と家庭を結び地域のハブのような役割を果たしている施設で、若者の就労支援も行っており、地域に欠かせない施設であるという印象を受けました。また、メディアセンターではＰＣの使い方講座から YouTube の撮影まで、最先端のＩＴ技術を市民の方に無料開放しており、予約が毎月すぐ埋まってしまうというお話が印象的でした。

エ　クライミング競技体験

①　日　時　令和６年７月２４日（水）午後４時３０分から６時まで

②　場　所　龍馬瀑布公園

体育館での予選試合終了後、生徒たちはバスで移動し、龍馬瀑布公園へと向かいました。高さ１７メートルのクライミングウォールを前に体験希望者を募ると、すぐに多くの生徒が挙手し、楽しそうに他の生徒のクライミングを見学しながら自分たちの番を待ちました。目黒区生徒が一番上まで登りきった際には驚きの声と歓声が響き渡りました。晴天に恵まれ、暑さが心配されましたが、圧巻のスケールの人工滝を前に涼むことができました。

（３）第３日目（令和６年７月２５日）

ア　交流試合（準決勝・決勝）

①　日　時　　令和６年７月２５日（木）午前９時３０分から１１時３０分まで

②　場　所　　ムクドン多目的体育館

３日目は、準決勝と決勝を行いました。前日に比べて選手同士も打ち解け、国を超えてチームメイトの試合を応援しました。勝ち負けに関わらず笑顔で握手を交わして試合を終

える姿からは、お互いの健闘を称え合うスポーツマンシップが見てとれました。

イ　バドミントン大会閉会式

①　日　時　　令和６年７月２５日（木）午前１２時から午後１時３０分まで

②　場　所　　ムクドン多目的体育館

③　参加者　　東城区代表団・選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区代表団・選手団

【目黒区】区長、文化・スポーツ部長、秘書課長、文化・交流課長、スポーツ振興課長ほか

閉会式では、今回のテーマが友好交流であることが再度確認され、中浪区からすべての選手に賞と賞品が手渡されました。各区コーチ陣により選出されるＭＶＰでは、目黒区からは多摩大学目黒中学校の高橋さんが選ばれました。また、各区生徒の感想発表が行われ、目黒区からは区立第七中学校の小笠原さんが代表して感想を述べました。参加した各選手が互いに敬意を表し、和やかな雰囲気のもと、スポーツ交流が終了しました。

ウ　歓送昼食会（柳 炅基（リュウ　ギョンギ）中浪区庁長主催）

①　日　時　　令和６年７月２５日（木）午後２時から午後３時１５分まで

②　場　所　　スカイガーデン・ザ･パーティ

③　参加者　　東城区代表団・選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区代表団・選手団

三区合同での最後のイベントとなる歓送昼食会が行われました。生徒たちは互いのテーブルを行き来したり、自主的に習得した相手国の言葉で挨拶したりと積極的に交流する姿が見られました。名残惜しさを感じつつ、会場を後にしました。

エ　文化体験（工芸体験）

①　日　時　　令和６年７月２５日（木）午後３時３０分から６時まで

②　場　所　　パン・ジョンファン教育支援センター、オンギ（甕）テーマ公園

目黒区と中浪区の選手団が合同で工芸体験に参加しました。韓国の伝統的なデザインを模した図案に色付けを行い、個性溢れる色とりどりのトートバッグを完成させました。制作後は互いにペンで名前やメッセージを書き込み合う姿も見られ、世界に一つだけの作品を思い出と共に持ち帰ることができました。

工芸体験後は中浪区選手団と別れ、オンギ（甕）テーマ公園へ移動しました。キムチなどをはじめとする食糧貯蔵のための器であるオンギ（甕）の窯を見学したり、公園散策を楽しんだりしました。

オ　目黒区代表団　中浪区内視察

①　日　時　　令和６年７月２５日（木）午後３時３０分から６時まで

②　場　所　　中浪区立情報図書館、新内老人総合福祉館

代表団は中浪区立情報図書館、新内老人総合福祉館を視察しました。中浪区では、就学前に千冊読書をすることを目標にするプログラムがあり、多くの子ども達が図書館を訪れていました。また、老人総合福祉館では、皆さんが楽しそうにスポーツをする姿があり、ご高齢とは思えないパワフルな印象を受けました。

（３）第４日目（令和６年７月２６日）

ア　韓国観光公社アート施設（ハイカグラウンド）見学及び体験

①　日　時　　令和６年７月２６日（金）午前１０時１０分から午前１１時まで

②　場　所　　韓国観光広報施設ハイカグラウンド

最終日の文化体験として、「Hi Korea」から名づけられた「HiKR GROUND」（ハイカグラウンド）を訪問しました。韓国が誇るデジタル技術やアート作品を見学し、ミュージックビデオの世界観を再現したエリアでは全身で K-POP の雰囲気を体感することができました。仲良くなったメンバーと共に互いに写真や動画を撮り合いながら楽しみました。

６　報告会

①　日　時　　令和６年９月２７日（金）午後６時３０分から７時３０分まで

②　場　所　　目黒区総合庁舎２階大会議室

交流事業の集大成として三区間交流事業報告会を実施しました。参加選手のほか、区長、議長をはじめとする議員団や韓国大使館ら関係者も参加し、韓国料理を食べながら写真や動画を見て中浪区滞在を懐かしく振り返りました。選手たちは一人ずつ印象に残ったことや楽しかったことを発表し、思い出を共有する時間を持ちました。初めての海外渡航であった中学生も多く、刺激的な体験であったことがうかがえました。コーチからのコメントもいただき、久々に再会する仲間との時間を惜しみながら会は終了となりました。

７　ま と め

新型コロナウイルス感染症流行後初となる対面開催での三区間交流事業は、４日間の行程をソウル特別市中浪区において、無事予定通り実施することができました。事業全体を通して、バドミントン大会によるスポーツ交流やクライミング体験、工芸体験やソウル市内視察など選手たちに様々な体験の機会を提供することができました。

スポーツ交流では初の試みとして国を超えた三区混合チームでの大会運営が行われ、友好交流を重視し、言葉や文化の異なる各国の選手たちが同じチームメイトとして一丸となって戦いました。ペアを組んでプレーする上では一人ひとりがコミュニケーションを工夫し、言葉の壁を乗り越え、笑顔やジェスチャーを交えながら互いを尊重して協力する、まさに国際交流を体現した大会となりました。

文化交流では工芸体験や市内視察を通じて、現地の言語や街並み、食べ物などにふれ、異文化を身近に体験する貴重な機会となりました。今回が初の海外渡航となる参加選手も多く、驚きや発見の連続で新鮮な日々となったことと思います。

参加した選手たちにとっては未知の体験も多々あり、時には戸惑うこともあったはずですが、その都度自分なりに考え、周囲の人と協力し合いながら成長できた４日間だったのではないかと思います。今回の経験で学んだことや感じたことを心に留め、今後の学校生活や他者とのコミュニケーションなど様々な場面で活かしてくれることを願っています。

本年度の交流事業は、女子選手の参加や国混合でのチーム編成など初めて取り組んだ内容も多く、新たな交流事業の在り方を検証することができました。次年度以降も三区間交流事業を継続して実施していくことを三区で確認したところであり、今後もより一層充実した交流事業とすることができるよう引き続き協議しながら取り組んでいきます。

８　選手感想文

三区間交流事業　目黒区選手団　選手１６名

目黒区立第七中学校２年　藤井　杜羽

私は、今回の三区間交流を通して学んだことが二つあります。

一つ目は「積極的に行動することの大切さ」です。国の違う色々な人と交流することは、言語の壁などで戸惑うこともありました。自分の思っていることと相手の思っていることを伝え合うというのがとても難しかったです。しかし、みんなが言葉を自分から積極的に調べて話してみたりと、いろいろな人とコミュニケーションをとる姿がよく見られました。その結果、最終日にはとても仲良くなり連絡先を交換したりなど、他国の子との距離が少し近くなったと思います。

二つ目は「異文化を理解し合うことの大切さ」です。一日目の夕食会でそれぞれの国の伝統文化を体験させていただきました。私たちは普段あまり食べ慣れていないものもあったけれど、その国の子たちの食卓には毎日のように出されていると思うと感慨深かったです。しかし、意外と韓国の街並みは日本に似ていると思うことが多々ありました。日韓の交流で築いてきた歴史も同時に感じることができました。

今回の三区間交流で日本の仲間や韓国、中国の新しい友達と、とても楽しい体験ができました。この経験をバドミントンや中学校生活にも活かしていきたいなと思います。

目黒区立第七中学校２年　西村　美音

私は、韓国に行って発見したことや驚いたことが二つあります。

一つ目は、言語の壁です。

日ごろから英語を勉強している私たちですが、中国の人や韓国の人とは、意思疎通が難しいと思っていたのですが、実際は翻訳アプリを使ったり、少しみんなで覚えた韓国語と中国語を使ったり英語で話すと、予想とは違いちゃんと伝わり、コミュニケーションをとるのが楽しかったです。特に試合の混合ダブルスの時に、ペアの中国の選手から早口の英語とジェスチャーで作戦を伝えられ、何となく理解し作戦通りに動いてスマッシュを打ったら、ペアの選手に「ナイス！」と言われたのがとてもうれしかったです。

二つ目は、仲良くなる方法です。

バドミントンの試合が終わった時に、中国の選手たちが個別に、日本人の選手にお菓子やキーホルダーなどたくさんのプレゼントをあげていました。韓国の選手は、数人の人が小さめのプレゼントを用意していて、日本人はもらったら少しお菓子をお返ししていました。これを見て私は、仲良くなる方法の文化の違いかなと思いました。調べたら、中国人は、相手に高価なものをプレゼントするのが文化ということなので、交流の仕方で文化や個性が出ていていいなと思いました。また韓国に行きたいと思うし、中国にも行ってその国の文化について知りたいなと思いました。

目黒区立大鳥中学校２年　阿部　來未

私はこの四日間、素晴らしい体験をしました。また韓国は初めてで、他国の街並みや食文化などについて知る機会にもなりました。

最初は楽しみという気持ちの反面、言語が違うので仲良くなれるのか、コミュニケーションが

できるか不安でした。しかしダブルスでペアになった方がとても優しくて、不安が一気になくなりました。会話は難しかったのですが、ジェスチャーや簡単な英語などで頑張り、協力して勝てた時はとても嬉しい気持ちになりました。

交流や試合の他にも、食事やクライミング体験、文化体験など、とても楽しく最高の思い出になりました。

韓国や中国の方たちはレベルが高く、参考になるプレーが多くありました。そこで学んだことを実際に取り組んでみるなどして強くなれるよう頑張りたいです。また時間を守れなかったなどの生活面での課題もあったので、今後無くしていきたいです。そして、三区間交流に関わった全ての人への感謝を忘れないようにしたいです。

目黒区立大鳥中学校２年　阿部　栞奈

私は三区間交流で韓国に行きました。韓国に行くのは初めてでいろんなことを学び、楽しいことがたくさんの四日間になりました。

私が韓国で思い出に残ったことは国籍の違う人と交流したことです。初めは言葉が通じるのか、友達になれるのかなど、心配なことがありました。でも、勇気を振り絞って話しかけてみたら言葉は通じないけどジェスチャーや翻訳アプリを使って話をしました。好きな食べ物の話、好きな有名人の話などたくさんのことを話せたし、連絡先を交換して友達になれて良かったです。私が嬉しかったのは、友達になった韓国、中国の子にプレゼントをもらったことです。言語は違っても友達になれるし仲良くなれるので嬉しかったです。

次に私が思い出に残ったことは、韓国のご飯です。日本で食べるのとはちょっと違ってとてもおいしかったです。食べてみたかったサムギョプサルはとても美味しかったです。そして、三区間交流の最終日に韓国、中国と一緒に食べた韓国料理とそこで撮った写真もいい思い出になりました。

私は三区間交流でたくさんの事を学びました。ルールやマナーの事。そして、目黒区の代表として行っているという自覚を持って行動する事です。

私は三区間交流で支えてくれた皆様に感謝したいです。友達とも協力してもっと仲が深まりました。とても楽しかったです。人生の最高の思い出になりました。今回の三区間交流で学んだ事をこれからの人生に活かしていきたいです。また行きたいです。

目黒区立大鳥中学校２年　稲村　咲季

私はこの日中韓三区間バドミントン交流事業に参加し、発見や喜びがいくつもありました。

他国の子たちと過ごす間、ありきたりですが日本との違いに発見がありました。一つは、食文化の違いです。その中でも記憶に残るものが食事の作法です。日本の和食には食べ方に様々な作法があります。例えば口を開けないで音を立てず食事をするということです。ですが、韓国では音を立てて食事をすることがご飯が美味しいというアピールで、それをあまり知らなかった私は少し戸惑いました。そんな違いを実際に体験して知ったことで、前より韓国のことを知れたと思うと嬉しいです。

また、韓国で嬉しかったことは他国の子たちと仲良くなれたことです。韓国に行く前、同じチームの子やパートナーのこと仲良くできるのかと心配していました。ですが、共にプレーをしていくうちに友情が深まっていくことが実感できてうれしかったです。さらに、言語が違う中、コ

ミュニケーションを取ることが難しいときもありました。そんな中、伝えたいことが伝わった時の喜びは、今でも覚えています。積極的に沢山の子たちとコミュにケーションを取りに行き、その分沢山通じ合えたことで、外国に友達が出来たということに嬉しく思いました。また、韓国・中国の参加者の中には男性ですが、高身長の人が多くみられました。その人たちは圧倒的に強く、プレーを見ることで多くの学びを得られました。

私は以上のことから今回の事業に参加できて良かったという気持ちが高まりました。そして、言語が異なっていても通じ合えることや、他国の参加者のプレーを見たり、その他三区間交流を通して学んだことを今後の生活に生かしていきたいです。

目黒区立大鳥中学校２年　松尾　はな

私が今回の三区間交流での経験を通して強く印象に残ったことは主に二つあります。

まず、一つ目は今回の三区間交流に参加した目的でもありますが、中国や韓国の友達が出来たことです。記憶に強く残ったのは、試合の休憩中などに中国や韓国の友達がお菓子をくれたとこや、三日目の昼食時に連絡先を交換したことです。また今回の試合で女子ダブルスのペアだった中国の女の子に日本語のメッセージとかんざしを貰ったことも印象に残っています。

次に二つ目は、今回の三区間交流への参加が決まった時です。今回の企画があるということは、同じ中学の稲村さんに「一緒に韓国に行かない？」と冗談交じりで誘われたことで知りました。ですが、まだお互い未成年だし、子供だけで旅行に行ったことがなかったので諦めていました。けれど今回の企画を知って対象条件が全て当てはまっていたので驚きました。すぐに稲村さんと応募してみたら、二人とも抽選に当たったのでさらに驚きました。また私自身も「いつか韓国に行ってみたいな。」と前から思っていたので心の底から嬉しかったです。もちろん実際に現地に立った時の喜びはそれ以上でした。

今後、三区間交流事業に参加する後輩たちにも、機会があれば私が感じた喜びを伝えたいです。そしてぜひ、私以上に楽しんでもらいたいなと思います。

都立桜修館中等教育学校２年　日南山　麗

私は、この三区間交流事業で色々なものに触れ、様々な新鮮な体験をすることが出来ました。その理由は二つあります。

一つは、普段一緒に練習していない人と試合をすることです。バドミントンでは、一人一人の癖や個性が打ち方や戦術に現れます。それらを自分と比較して洗い出すことで、更なる成長に繋げられたと思います。また、今回は日本人だけではなく、中国、韓国の人たちと一緒にダブルスを組んでプレーをすることで、ペアの相手との意思疎通が如何に大切かを実感しました。

理由の二つ目は、韓国に行くのが初めてだったことが挙げられます。韓国滞在中に日本との文化の違いを幾つか発見しました。まずは、車道が右側通行だったことです。日本では左側通行なので、気付いた時には驚きました。また、それによりハンドルが左になっていることにも気が付きました。次は、サムギョプサルの肉の焼き方が違ったことです。日本では網の上で肉を焼きますが、韓国では傾いた鉄板の上で焼いて、肉から出た脂を容器に集めていました。焼き方は違ったものの、とてもおいしかったです。

このように、バドミントンで他国の生徒と関わったこと、韓国に行って日本と違う文化に触れられたことは、大きな学びになりました。私は、今回の事業への参加を経て、今後も異文化圏の

多くの人たちと、ジェスチャーを交えながら積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思いました。このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。

私立実践女子中学校２年　寺村　優花

私は今回の三区間交流事業に参加してたくさんの貴重な経験ができて楽しい時間が過ごせたので応募してよかったと思っています。

出発前は韓国に行ける楽しみもありましたが他国の人とコミュニケーションは取れるのかなあ、と不安な気持ちもありました。

でも中国人の子がバドミントンの練習中に日本語で話しかけてきてくれたことがきっかけで自分でも片言の英語やジェスチャーで話しかけるようになりだんだんと仲良くなっていきました。

最後の日の歓送夕食会では中国の子が日本語で書いた手紙をくれました。日本語で一生懸命書いてくれたことに感動しました。あなたと仲良くなれて嬉しい、と書いてくれていました。中国のお菓子もたくさんもらいました。韓国や中国の子たちとも連絡先を交換したりして仲良くなれたので嬉しかったです。

韓国で食べた食事は辛い物がやはり多く、行く前は辛い食べ物が苦手だったのですが、何だか韓国で食べると美味しいと思いました。あとはお米の食感が違っていてやっぱり日本のお米は美味しいなあ、と感じました。

最後にこの三区間交流業に参加できたのでバドミントンを続けていてよかったなあ、と思いました。一緒に行った目黒区の仲間ともとても仲良くなれました。これから日本で一緒にバドミントンができるので楽しみです。

今後はバドミントンを頑張りながら英語や語学の勉強も頑張りたいと思いました。

いつか一緒に練習した中国や韓国の子たちとまた会ってバドミントンができたらいいなあ、と思っています。

目黒区立第七中学校２年　小笠原　煌稀

自分は海外に行ったことがなく、行ってみたいなと思っていました。三区間交流の事を聞いて、絶対行きたいと思い、行けることになった時は、本当にうれしかったです。

三区間交流では、ダブルスとシングルス両方ともあるだろうと思っていたので、ダブルスだけだと知った時は驚きでした。またダブルスはほぼやったことがなかったですし、自分自身苦手なので、ダブルスの練習をがんばりました。

本番の時、緊張などいろんなことで、全然本調子じゃなく、もう少しできたので、すごく悔しいです。自分のチームの一緒に組んでいた韓国の選手は、スマッシュがすごく早くて、自分が良いスマッシュを打ったらすごいとほめてくれました。最初は気まずかったけど、最終的に仲良くなれたので良かったです。

韓国では、初めてのことが多く、いろいろな経験をしました。初めて海外に行き、初めて飛行機に乗って韓国の料理を食べました。４つ星ホテルの大理石の床、ふろ、トイレ、自分の夢だったふかふかのベッドにとびこむこと、バドミントンのグリーンコートでやることができてよかったです。

そして、この三区間交流でダブルスに少しだけ慣れることができたので、これを活かしてもっとダブルスもシングルスも練習して、やることができる幅を増やしていきたいです。

目黒区立第七中学校２年　安東　丈生

三区間交流では、とても多くの体験をしました。僕にとっては、初めての飛行機、初めての海外、そして、初めての異文化交流でした。その全てが、貴重な経験になりました。

韓国へ出発する前は、話すことばや文化が異なる外国の中学生たちと、上手にコミュニケーションを図れるのか、バドミントンの練習や試合を協力しながら行うことができるのか、という不安な気持ちがありました。

一日目、羽田空港から金浦空港へは二時間半で到着しました。到着後、すぐにバスでムクドン多目的体育館へ向かい、日本人同士でバドミントンの練習に取り組みました。体育館は天井が高く広くて、とても立派で驚きました。韓国の街は、日本と同じくらい暑く、また高い建物が多いので、何となく日本と雰囲気が似ているなという印象を受けました。

二日目は、韓国、中国、日本の混合チームに分かれて、予選試合を戦いました。僕はその時、ダブルスでペアを組んだ韓国の中学生に韓国語で自己紹介をしました。相手の中学生も笑顔で、「よろしく」と韓国語の挨拶を返してくれました。自己流に勉強した韓国語でしたが、僕の話した韓国語が相手に伝わりとても嬉しかったです。

三日目は、二日目と同じチームでお揃いのユニフォームを着て、ダブルスの試合を戦いました。僕がミスをした時、ペアを組んだ韓国の中学生が、「大丈夫」と日本語で優しく声をかけてくれました。その一言がとても嬉しく、それからは安心してプレーをすることができました。行く前に僕の中にあった不安はすっかり消えていて、楽しく試合に熱中することができました。

今回の三区間交流で、最も大切だと感じたことは相手を思う気持ちだということです。ことばも文化も異なる相手との交流は尻込みしてしまいます。けれども、勇気を出して積極的にコミュニケーションをとれば、お互いに笑顔になれると実感しました。

出発準備の時から解散式までの間、多くの大人の方が僕たちをサポートしてくださいました。そのおかげでとても充実した時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。

目黒区立第七中学校２年　飯塚　紘一

韓国に行って色々な経験ができた。楽しかったことや嬉しかったことがたくさんあった。出発前は不安だった。だけど顔合わせ練習で一緒に行く子と少し仲良くなれて気持ちが楽になった。

出発当日は朝起きる時間が早くて大変だった。区役所に集合してバスに乗っても眠かった。飛行機に乗るまでゲームの話で盛り上がった。機内食がおいしかった。韓国に着いて長い入国審査が終わってバスに乗ると中が豪華で驚いた。まず体育館でバトミントンをして、夜は韓国・中国の人たちとご飯を食べた。正直気まずかった。ホテルがすごくきれいだった。部屋で荷物を整えて寝た。

二日目は三区間でチームに別れて試合をした。チームはぼろぼろに負けた。次にいったクライミング体験は高さを見て怖くなって参加しないことにして近くの人工滝の写真を撮っていた。夕食のサムギョプサルは楽しくて美味しかった。ホテルに帰ってから友だち達とコンビニへ行った。街や車は日本と似ていると思ったけど、コンビニはすごく違っていた。

三日目、決勝戦。昨日の試合では最下位だった。勝つのは無理だと思っていたけど敗者復活戦で決勝に進むことができた。中国の子と組んだ僕のダブルスは負けたけど、別のダブルスが勝ったので同点になって、最後にチームの代表の試合がすごくいい内容だったが負けてしまった。それでも二位で賞品のラケットをもらえた。昼は同じチームの韓国・中国の人たちと食べた。試合

で仲良くなって連絡先を交換した。

四日目、ソウルの文化体験施設のあと石焼ビビンパを食べた。お土産を買う時間があって空港に向かった。最後に韓国の国旗のキーホルダーを買った。飛行機では寝てしまい、起きて機内食を食べたらすぐに日本に着いた。４日間、短かったと思った。

三泊四日の韓国のこんなに良い体験なんて普通は出来ないし、韓国とか中国とかの印象が変わった。一緒に行動してくれた大人の人たちにたくさんお世話になった。感謝の言葉しかない。

目黒区立目黒中央中学校２年　鷲澤　巧真

私はバドミントンを通して、韓国・中国と交流し、コミュニケーションをとることができた。

バドミントンではプレイペアの相手と、英語で声をかけ合い、協力しながらラリーを楽しんだ。男子では韓国、中国どちらもうまい選手がいて、いっしょに対戦したけど、とてもうまかった。とても良い経験ができて、自分の苦手なところなど発見できた。

韓国で交流を行い、料理なども食べた。韓国といったら辛い物というイメージがあり、キムチやビビンバ、ジャージャー麺みたいな物も食べた。とても辛かったけど、おいしかった。

私はこの三区間交流をして、英語でのコミュニケーションやバドミントンでの協力プレイなど様々なものを学べた。韓国には初めて行ったからとても楽しく、ごはんもとてもおいしかった。色々な人と交流しようと思った。

都立桜修館中等教育学校２年　八木澤　正海

私はこの三区間交流事業で様々なことを体験しました。

まず、文化交流についてです。私は食事や韓国国内での生活で異文化を体験しました。食事では、複数人で同じ皿のものを食べるということを経験しました。また、水道水が飲めないことや、車が通る側が日本の反対側だということに驚きました。これらから異文化を理解するということの大切さがわかりました。

次に、バドミントンの交流についてです。バドミントンの交流のおかげで、いろいろな人と仲良くなれました。このことからスポーツを通して交流するということの大切さがわかりました。

この交流イベントで、このような体験をすることができました。今回の交流イベントで学んだことを今後に活かしたいです。

私立森村学園中等部２年　楠本　颯太

僕は小学生からバドミントンをしています。今回、韓国での交流試合に参加できると聞き、とてもうれしかったです。それから日々の練習にも力が入り、韓国に行く日を楽しみにしていました。一日目は、自分たちの国のメンバー同士で練習をしました。驚いたのはコートが本格的なマットだったことです。また、他の国の人とチームを組んでダブルスをしました。私は韓国人の子と組みました。他の国の選手たちはとても強くて身が引きしまりました。試合後はクライミング体験をしました。僕は頂上の半分にすらとどきませんでしたが、友達は頂上までのぼっていてすごく驚きました。二日目から試合が始まりました。ペアの韓国人の選手がすごくフレンドリーでコミュニケーションがとりやすく全勝することができました。三日目の決勝戦もチームとしてギリギリ勝つことができ、チームで優勝することができました。チームの仲間で互いに応援した

り、励まし合って優勝できたことはとても嬉しかったです。また、優勝賞品としてラケットをもらいました。これは僕にとって最も嬉しいお土産になりました。

この交流を通してバドミントンだけでなく、韓国の歴史的な場所や現代的なエリアを回ったり、韓国のサムギョプサルや石焼ビビンバを食べたりしてとても楽しむことができました。僕が今回の交流で思ったのは、立場の捉え方や文化が少し違っていても、相手への尊重や礼儀を大切にしていくことが大事だということです。また今回のような交流事業に参加させていただけた事をとても幸運な事だと思いました。区長をはじめ、同行してくださった方々やコーチ、関係者の方々への感謝を忘れずに、今回のこの経験を僕の一生の経験として多くの人に伝えていきたいです。

私立多摩大学目黒中学校２年　高橋　律

今回の三区間交流でいろいろな初体験ができました。四日間の中で一番心に残ったのは中国と韓国の人とペアを組んでダブルスをしたことです。

自分は中国語も韓国語も話せないし、聞きとれないというなかで試合をすることになったので、ちゃんと試合ができるか不安でした。ですが、何試合もしていくなかで全く知らなかった人と友達になることができました。点を取ったらハイタッチをしたり試合が終われば相手の人とも、ペアの人とも握手をして挨拶をしました。そういう、言葉では伝えられないことを行動で伝えながら試合をしていきました。勝ったり負けたり二人でよろこんだり二人でアドバイスをし合い、いろいろ改善しながら国をこえて勝ちを目指して奮闘しました。結果は負けでも、笑顔で終わることができました。今回の経験で、言葉だけでは伝わらないことを行動で伝えると言葉以上のことを伝えられるということを知ることができました。このような素晴らしい体験の機会をいただき、ありがとうございました。

私立三田国際学園中学校２年　澤田　宏愛

交流会の初めは、緊張しました。一緒に韓国へ行くことになった日本の仲間たちの中に僕の知っている人がいなかったからです。また、みんなが空港ですぐに打ち解けている中、自分がそれに混じれなかったときは不安でした。これから韓国や中国の人たちとも交流するのに、どうしようと思ったものです。

しかし、結論からいうと、すぐにみんなと仲良くなれました。なぜなら、僕が出会った仲間はみんな親切で、積極的に話しかけてくれたからです。寝食を共にしたことで、自然にお互いについて詳しくなりました。これはどの国の出身でも同じです。例えば、ダブルスでペアになった韓国の人は、下手な僕をリードしてくれました。いつも笑顔で応援する時も全力で、そんな彼に今でも感謝します。ちなみに、彼とサインも交換できました。

交流では、日本語で話せないことが、逆に一つの挑戦のようで面白かったです。バドミントンの試合でペアとハイタッチや声の掛け合いをして、対戦相手とはラケットで握手をしました。体を使った交流は言葉とは違い、新鮮で刺激的でした。

まとめると、国境関係なく、どんな人も優しかったということ。そして、交流の方法が多彩で楽しかったということです。

ですが、ソウル市の観光では日本との違いをじかに感じました。文字はもちろん、ごはんや文化全てが興味深かったです。現地の方に美味しい食べ方を教わって食事をしたり、韓国がアイド

ルやエンタメに力を入れていることがよくわかる場所へ連れて行ってもらいました。日本とは違う学びがあります。

今回の交流会を通して、僕は人の優しさと、体で交流をすることの楽しさを体験しました。友達を作って、バドミントンの面白さをさらに実感できた最高の時間でした。

【参考資料】

三区間交流事業事前調査（ソウル特別市中浪区）【４月１５日～１７日】

１　目　的

令和６年７月２３日（火）から２６日（金）にソウル特別市中浪区において実施される目黒区、北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区の三区による三区間交流事業に先立ち、事前調査を行う。実際に子どもたちが使用する体育施設や見学施設などを、現地において調査するほか、今回の交流事業詳細確認や次年度以降の交流推進に向け、中浪区政府関係者と意見交換を行う。

（１）三区間交流事業実施に伴う現地調査及び協議

（２）今後の交流推進に向けた意見交換

２　日　程

令和６年４月１５日（月）から４月１７日（水）まで（２泊３日）

月日	時間帯	内　容	場所
４月１５日（水）	午前	・出国	羽田空港
	午後	・ソウル特別市中浪区到着 ・中浪区庁長表敬訪問 ・中浪区内施設視察	金浦空港 中浪区役所 中浪養源メディアセンター
４月１６日（木）	午前	・ソウル特別市内視察 ・歓迎昼食会	ソウルの森 安市城
	午後	・中浪区内施設視察	ムクドン多目的体育館、龍馬瀑布公園、オンギ（甕）テーマ公園他
４月１７日（金）	午前	・ソウル特別市内視察	ハイカグラウンド他
	午後	・帰国	羽田空港

＜参考＞経費負担（区訪問団６名分）

宿泊旅費、現地車両費、通訳士経費、記念品等　１，６０６千円余。

※二区間の取決めにより、歓迎食事会の経費は中浪区が負担。

３　訪問団の構成

勝島　壮介　　文化・スポーツ部長

千田　美都夫　文化・交流課長

平野　宏子　　スポーツ振興課長

成毛　久雄　　文化・交流課交流推進係長

香川　えり子　文化・交流課交流推進係主任

山口　善崇　　スポーツ振興課スポーツ事業係主事

４　概　要

（１）中浪区庁長表敬訪問

①日　時　令和６年４月１５日（月）　午後２時４５分から３時３０分まで

②場　所　中浪区庁長応接室

③同席者　柳 炅基（リュウ ギョンギ）区庁長他７名

ビデオ会議で協議していた中浪区長や担当者と対面での再会を果たしました。今大会をパンデミック後に初めて現地開催される大切な大会と位置づけ、未来を担う若者が友情を分かち合う貴重な経験になるようにという共通認識を確認しました。

（２）中浪区内施設視察

①日　時　令和６年４月１５日（月）　午後３時３０分から４時２０分まで

②場　所　中浪養源メディアセンター

令和６年３月に開館したばかりの中浪区直営のメディアセンターを見学しました。この施設ではメディア創作活動支援の一環としてニュース制作体験などが体験でき、動画制作に関する授業なども広く住民向けに開講しているとの事です。充実した設備からはメディア教育に力を入れている現地の様子が見てとれました。

（３）歓迎昼食会

①日　時　令和６年４月１６日（火）　正午から午後１時３０分まで

②場　所　安市城

③同席者　鄭 鎭禹（チョン ジンウ）副区長他５名

中浪区副区長主催の昼食会は和やかな雰囲気のもと行われました。今回のスポーツ交流事業が国対抗で順位を競うものではなく、三国混合チームで友好交流を重視するものであることを再認識し、参加者が互いを尊重し合う素晴らしい大会になるという期待のもと、両国が協力しながら準備を進めていくことが確認されました。

（４）中浪区内施設視察

①日　時　令和６年４月１６日（火）　午後１時５０分から４時３０分まで

②場　所　ムクドン多目的体育館、龍馬瀑布公園、オンギ（甕）テーマ公園

ムクドン多目的体育館は７月本番のバドミントンの試合で使用する体育施設であり、バドミントン専用のコートを最大８面利用することができます。コートや観覧席、トイレなど主要な設備を確認し、また試合運営の方向性なども共有しました。

続いて訪れた龍馬瀑布公園は夏季期間に放流される東洋最大級の人工滝が有名な公園で、クライミング体験施設を有しています。体験事業としてクライミング体験を行う場合の想定や屋内の施設についても説明を受けました。オンギ（甕）テーマ公園では、伝統的な技法で使用する窯のほか、工芸体験教室の様子を見学しました。

（５）ソウル特別市内視察

①日　時　令和６年４月１７日（水）　午前９時３０分から１１時３０分まで

②場　所　ハイカグラウンド、明洞市街他

韓国観光広報施設であるハイカグラウンドを見学し、デジタル技術や現代アート作品について説明を受けました。観光案内所としての役割を持つ当施設は多言語に対応しており、日本語でのガイドツアーに参加することができました。若者に人気のミュージックビデオの世界観を体感できるエリアや韓国伝統技術にふれることのできる展示など様々な角度から韓国の文化を感じることのできる施設でした。

５　まとめ

今回の事前調査では、令和６年７月に開催予定の三区間交流事業に参加する子どもたちが安全に全行程を遂行できるよう、宿泊施設、訪問する予定の体育施設及び文化施設を調査しました。特にスポーツ交流であるバドミントンの試合を行うムクドン多目的体育館においては、中浪区側と具体的なイメージを共有しながら健康管理や安全面を中心に運用に関する事前確認を行うことができました。また、スポーツ交流にとどまらず、韓国の食文化や伝統文化、現代アート等にふれる体験も提供したいという思いから、文化交流の実施内容についても検討することができ、成果が得られました。